

アートで伝える ベトナム戦争

Cover Photo
ARMY DIGEST
© WORLD PHOTO PRESS 2022
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

終わりの見えない戦い——。

004 ロシアのウクライナ侵攻

010 アメリカ軍の基礎訓練 **ベトナム編**

図解エンサイクロペディア

016 **DUST OFF** 救出せよ

Army Aeromedical Evacuation in Vietnam ●Illustrated by M. Kelly

024 ベトナムを遠く離れて——。

私的ベトナム戦争映画／TVムービー Part 7 文／小倉 徹

まだ語られていない

026 **LST船員の記録** 第5回
UNTOLD SEAMAN BLUES

戦場のメモ帳 文／今城力夫 Photo/US Army

038 帰国前夜の銃声 テト攻勢

1968年1月31日(ベトナムの正月)

046 第43回 **サイゴン物語** Saigon Memories
記者たちのベトナム戦争 [20]

資料収集と現地視察 第3回 王 仁 部 編 文と写真／三野正洋

050 **ベトナム戦争 激戦地の戦跡探訪**

056 **Militaria Roundup!**

アメリカ陸軍の徽章(バッジ) PART2

The Equipments of the U.S. Force

063 **[現用米軍装備カタログ]**

「海」装備特集 part 6 90年代の強襲上陸装備特集
ロンドン・ブリッジ・トレーディングLBT-1195 解説／松原 隆

072 **ウエスタンアームズ新製品リポート**

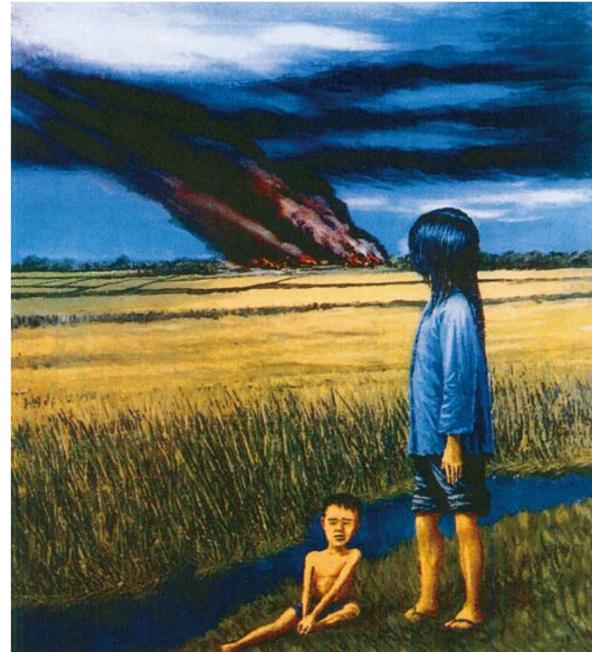
by SHOTGUN MARCY

●キンバー エクリプス・プロ/ウッド・グリップ・バージョン
●ベレッタM92FS ダイハードバトルダメージ・バージョン

月刊 **THE グリーンベレー** 文/DJちゅう

081 **GREEN BERET**

MOS18Dメディカルサージェント装備 & U.S.ソーコム新型ヘルメットFTHS!



087 東京マルイ新製品リポート by Takeo Ishii
●コンパクトキャリヤガスガンシリーズ第4弾 CURVE

092 **トイガンニュース**

●TANAKA M40A1 “タクティカル・オール・ブラック”
24インチ・カートリッジ・タイプVer.2 サンケン別注限定モデル
●TANAKA スモルトリボルバー4インチ ステンレス・モデルVer.3

094 新製品情報 **COMBAT mono**

096 **ANOTHER SIGHT PICTURE**
SAS & DELTAフォトセッション

ボスゲリラ不屈のトイガン魂!

100 **サバゲ・マスカラ・コントラ・マスカラ!**

COMBAT FRONT LINE

107 今月の中田焦点! セスラー タイガーストライプジャケット&パンツ

108 新作映画情報「アンビュランス」「ヒットマンズ ワイフズ
ボディガード」「スピリットウォーカー」

102 サバゲ三等兵APS部
祝・開催! 2年ぶりのすみだ公式記録会!

104 第19回 Stringer Blues 写真・文／横田 徹

106 レアミリタリーテクノロジー

109 読者PRESENT & CIC

111 奥付&次号予告



ミリタリースポッター

At Saigon on 19 July 1964, a C-47 Aircraft flying over the Rex Hotel building dropped propaganda leaflets about the purpose of National Shame Day.

It was the day to “to commemorate the signing at Geneva on 20 July 1954, the agreement which divided Vietnam into two parts.” Rex hotel sitting at Le-Loi Circle, Saigon where afternoon military press briefings -quickly dubbed the Five O'clock Follies - occurred by the USIS.

Photo/US Army

1964年7月19日のこの日、レックスホテル上空を1機のC-47が、プロパガンダのピラをまき散らしながら飛び去った。ジュネーブで1954年7月20日に和平協定に署名がされ、ベトナムが南北二つに分断された恥辱を忘れないためにある日だ。ところで、サイゴンのレロイサークルにあるレックスホテルは、アメリカのUSIS (広報文化交流局) が毎日、午後のプレスブリーフィングを行った場所である。その記者会見についたあだ名が「5時の愚行」である。



終わりの見えない戦い——。

ロシアの ウクライナ 侵攻

誰も望まない大義なき戦争が始まってしまった——。
ロシアは、圧倒的国力と軍事力をもって
ウクライナへと侵攻した。
これに対し、ウクライナは、国を守るため、
玉砕覚悟で立ち向かう覚悟を決めた。
死をも恐れぬ抵抗を続けるウクライナに対し、
短期決戦で勝敗が決まると高をくくっていたロシアは
苦戦を強いられている。
市民に多大なる犠牲を出しながら、
戦いはますます激化していく。
なぜ、この戦争が起きたのか、改めて振り返ってみたい。
文/菊池雅之 イラスト/M.Kelly

アメリカ軍の 基礎訓練

ベトナム編

陸軍ではBCT (BASIC COMBAT TRAINING)、空軍ではBMT (BASIC MILITARY TRAINING)、海軍および海兵隊ではRECRUIT TRAININGと呼ばれるアメリカ軍の基礎訓練。近年ではフィットネスやダイエットのために一部が民間で取り入れられているこの訓練は“ブートキャンプ”の呼び名で知られる。今回はベトナム戦争時に行なわれた陸軍の基礎訓練について、海兵隊や海軍、そして空軍の写真も交えてお送りします。

文 / 鈴木健太郎
写真 / WPPアーカイブ、US ARMY、USMC

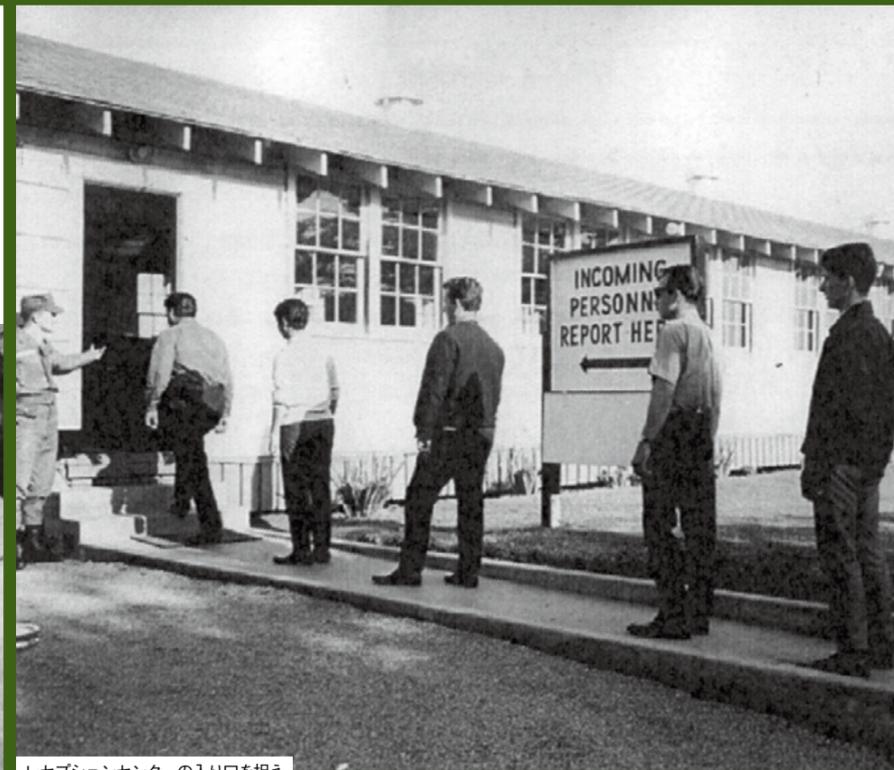
アメリカ軍の基礎訓練は独立戦争が始まってから3年後の1778年にプロイセンの軍人フリードリヒ・ヴィルヘルム・フォン・シュトイベンによって体系化され、第一次大戦では16週間(624時間)だった訓練カリキュラムは第二次大戦中の1943年に17週間(644時間)に延長されたのだが、1948年に8週間(372時間)、翌49年には14週間(560時間)と目まぐるしく変化し、1954年から1999年まではふたたび8週間となった。基礎訓練は営内訓練、個人技能訓練、致死性訓練、集団訓練の四種類に大別されており、ベトナム戦争が本格化した1965年のカリキュラムは営内訓練の割合が高かった上に実戦を想定した訓練の内容がベトナムにおける戦いとかけ離れていたため新兵の多くが指揮官の期待に応えられなかった。ベトナムへの急激な増派が行なわれる中でアメリカ軍はカリキュラムの改善に着手し、営内訓練の時間が大きく減らされるとともに集団訓練では待ち伏せに対するカウンター攻撃といった対ゲリラ戦の習得に重点が置かれ、サバイバルや敵地からの脱出法をまとめたSERE (Survival, Evasion, Resistance, and Escape) の講習も行なわれる様になった。戦地での活動を重視するカリキュラムの傾向は戦争が終わった後も続き、2000年に入ると基礎訓練の期間が9週間(532時間)と長くなり、営内訓練の割合が大きく増えた。

ナムにおける戦いとかけ離れていたため新兵の多くが指揮官の期待に応えられなかった。ベトナムへの急激な増派が行なわれる中でアメリカ軍はカリキュラムの改善に着手し、営内訓練の時間が大きく減らされるとともに集団訓練では待ち伏せに対するカウンター攻撃といった対ゲリラ戦の習得に重点が置かれ、サバイバルや敵地からの脱出法をまとめたSERE (Survival, Evasion, Resistance, and Escape) の講習も行なわれる様になった。戦地での活動を重視するカリキュラムの傾向は戦争が終わった後も続き、2000年に入ると基礎訓練の期間が9週間(532時間)と長くなり、営内訓練の割合が大きく増えた。

障害物をたどって登る ROTC (陸軍予備士官訓練課程) の生徒たち。屋外の訓練では体力、気力ともに激しく消耗するメニューが続き、支給されたユニフォームとブーツが身体に馴染むより早く汚れとダメージまみれになってしまう。訓練生たちは入隊して何日もしないうちに、戦闘服や作業服がなぜ疲労を表す“ファティグ”と呼ばれるのかを悟る。1965年 撮影場所不明



「良く来たな。たった今から諸君は陸軍の一員だ。バスを降りて整列しろ」鬼の様な顔をした下士官が被っているのはキャンペーンハットと呼ばれる旧式の戦闘帽で、教練軍曹のトレードマークである。教練軍曹は訓練におけるもっとも身近でもっとも恐ろしい存在。簡単に言えば“神様よりもエライ人”として訓練生の記憶に深く刻み込まれる。1965年 フォート オード



レセプションセンターの入り口を捉えた写真。この建物に入ってからはおしゃれな服装や髪型とは無縁の、オリブグリーン一色の世界が待っている。1965年 フォート オード

健康診断の一環として体温を測っているところ。坊主頭になった訓練生の顔はやや不安げに見える。1964年 バリスアイランド海兵隊新兵訓練所

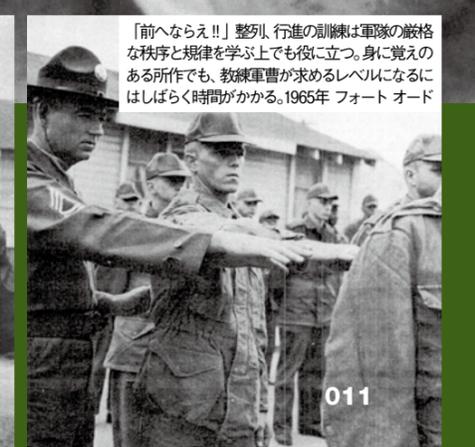
BASIC TRAINING



新たに支給される被服のサイズを確認する教練軍曹。軍の被服はサイズが豊富に用意されているので大抵の訓練生は自分に合った服がすぐに見つかる。逆に言えば真正サイズでない服を着て好みに着崩すことは許されない。1965年 フォート オード



支給された被服に身を包み、残りの物をダブルバッグに入れて教練軍曹の後に続く。オリブグリーン色の服と黒いブーツで統一された訓練生たちの姿は外見上は現役の兵士たちとまったく同じになっている。1965年 フォート オード



「前へならえ!!」整列、行進の訓練は軍隊の厳格な秩序と規律を学ぶ上でも役に立つ。身に覚えのある所作でも、教練軍曹が求めるレベルになるにはしばらく時間がかかる。1965年 フォート オード

DUST OFF

Army Aeromedical Evacuation in Vietnam

救出せよ

「DUST OFF!」を要請すると、負傷兵を危害から遠ざけるために医療避難ヘリコプターが出撃する。ベトナム戦争では戦場で負傷した兵士の多くは、緊急の医療処置を受けるために必死だった。これに対してアメリカ軍は負傷兵の回収のための特別任務を指定し、コールサインを「DUST OFF」とした。

構成／コンバットマガジン編集部 文とイラスト／M. Kelly

「DUST OFF」は朝鮮戦争時に負傷兵を移動させる輸送方法として、ヘリコプターを使用したことに始まる。当時はベル社製SC-47などの2人乗りヘリコプターを使って、軍の移動外科病院（MASH）に搬送した。しかし、外側に付けられたキャビンに1人の患者しか輸送できない。そこで、ベトナム戦争ではより大型で、より強力な負傷者救助に適したヘリコプターが登場した。それが、ベル社製UH-1Aイロコイ。すべての兵士たちに知られることになった通称「HUEY（ヒューイ）」だ。

アメリカ軍は本格的にベトナム

戦争に介入したものの、朝鮮戦争とは違うジャングル地帯での急変する悪天候での戦いや、絶え間ないゲリラ攻撃など、最前線は混乱し、状況は刻一刻と変化した。道路を走行する車輛は悪路に加え、地雷、待ち伏せ攻撃などの危険に常にさらされ、激しい戦闘が行なわれた地域のいくつかは道路が繋がっていないほど離れており、負傷兵の搬送は困難をきわめた。そこでアメリカ軍は事態を変えるべく、ヘリによるダストオフシステムを踏襲し、35分以内に負傷兵に適切な医療を提供することを目標にした。

1962年4月。第57医療分遣隊（ヘ

リコプター救急隊）が5機のHUEYと共にベトナムに到着した。初期は海軍の支援活動により南ベトナムでのコールサインはすべて管理されていた。派兵部隊が急激に増える中、システムの多様性と支援範囲が変更され、戦闘部隊の医療支援部隊の構造と種類を再設定した。まずは、3個の小隊を持つ4個の中隊の医療大隊が各部門を支援する。1個単位の小隊がそれぞれの旅団を支援する。残りの2個小隊が歩兵、戦車大隊または装甲騎兵中隊のユニットをサポートする。ベトナムでの流動的な戦闘状況下で、医療部隊の混乱を防ぐためであった。



ダストオフヘリコプターの乗組員は2名のパイロット、衛生兵1名と乗組員長1名の計4名で構成される。パイロットは操縦し、副パイロットは通信指令とナビゲーション、パイロットが負傷した際には操縦もする。乗組員長は衛生兵の医療行為のサポートをし、搬送される負傷兵を少しでも良い状態にするために尽力する。

UNTOLD SEAMAN BLUES

写真と語り／木村 守 (元LST乗組員)
文／吉野文敏 構成／編集部

【第5回】

まだ語られていない
LST船員の記録

航海を重ねるごとに増えてくる新しい寄港地、
一方で幾度も訪ねることになる寄港地。
今度はどんな写真が撮れるだろうか、
木村さんは行く先々の寄港地でカメラを向けた。
期待通りにいかない時には、「そういうこともある」。
そんな言葉で自分を慰めていた。



ファンランの深い入り江の奥、子どもたちが
水遊びしていた近くで、フタも水浴びをして
いた。「エサ探しの散歩途中だったのかなあ」。

戦場考現学

アートで伝える ベトナム戦争

1963年8月、米陸軍情報分科長として南ベトナム視察団に参加したロバート・B・リッグ大佐は、公務の間にベトナムの地で見たあらゆる事象をメモやスケッチで書き止め、帰国後にそれらを元に絵を描いた。彼の目を通して描かれたベトナム戦争の様相をご紹介します。

by Colonei Robert B. Rigg 構成/コンバットマガジン編集部

南ベトナム、1963年。米国の援助の下、反共政策を強行するゴ・ディン・ジエム政権と南ベトナム民族解放戦線（ベトコン）との対立は激しさを増し、クーデターが頻発。国は混乱状態に陥っていた。米国が本格的に介入する以前のこの国の様子をキャンバスに描いたアマチュア画家がいた。そこからはゲリラの暴力に立ち向かう英雄たちの勇気や民衆の苦しみや嘆きが伝わってくる。

ロバート・B・リッグ大佐は1963年8月、米陸軍情報分科長として南ベトナム視察団に加わった。公務の合間に暇があるとそこで見たものや人についてメモし、鉛筆でスケッチしたりしていた。これらのメモやスケッチに加え、脳裏にしっかり焼き付けた光景や

事柄も思い出しながら帰国後、絵を描いたという。あくまでも趣味で描いたものだが、ここに紹介しよう。

画家は単にカメラのように被写体を写し取るだけではない。そこに漂うムードや感情も自らの視点で取り込もうとする。そのために様々なテクニックが駆使される。たとえば「ゾーンDに隠れた敵」は抽象と具象を取り交ぜて鬱蒼としたジャングルに潜む危険を表現してみた。また「サイゴン」はこの美しい都の賑わいやそこに潜む闇や混乱、政治的駆け引きを抽象画で表わした。また「空から散弾銃を撃つ」や偵察活動をする兵士を描いた作品のように、よりリアルで直接的な表現をした作品もある。このように、そこで起こってい

ることの性質や雰囲気に応じて最適な色や構図を選んでいる。

ベトナム戦争を象徴する光景のひとつが上空に突如出現する大型ヘリコプターの群れだろう。この印象的なイメージはやはり絵になる。しかし、より強烈な印象を残したのは実際に戦闘に参加し、日々危険に直面していた男たちの姿だった。ベトコンと勇敢に戦う男たちを描いた「やるかやられるか：自衛団」がよい例だ。

公人としての視察旅行だったが、ロバート・B・リッグ大佐は一個人としても多くの現実を目にし考えさせられたという。これらの絵から何か少しでも感じ取ってもらえたら幸いだ。

DECEMBER 1965 ARMY DIGEST

Counterinsurgency Airpower

反政府活動を空軍力で封じる
ロバート・B・リッグ画



The Parentless Ones

親を亡くした子供たち
ロバート・B・リッグ画



ベトナム戦争 激戦地の戦跡探訪

資料収集と現地視察 第3回：北部編

文と写真／三野正洋

戦跡探訪の旅、3月号(第1回)の南部編：ホーチミン(旧サイゴン)、4月号(第2回)の中部編：フエに続く第3回(最終回)は、旧北ベトナムの首都で現ベトナムの首都でもあるハノイを中心とする北部編の戦跡を巡る。

かつての国境線だったソンコイ河の支流を鉄橋で渡り、(旧)北ベトナムに入る。この地では地上戦は行なわれていなかったため、戦跡はほとんど存在しないように考えていた。

ところが1967年頃から始まったいわゆる“北爆(北ベトナムに対する爆撃)”により、一部の南ベ

トナムの地方より数段激しい地対空の戦いが繰り広げられ、首都ハノイから南の部分は、すべてが激戦地になっていた事実が分かった。

国道1号線の両側は、投下された爆弾による窪みだらけ。そこに水が溜まり小さな池を造っている。さらに対空火器、対空ミサイルが多数置かれたままになっており、戦争中の情景が完全に近い状況で残っている。

そのようなから地対空の戦いながらも激しかった地域を訪ねた。

3：1 ロンビエン大鉄橋

紅河に架かる全長2キロの鉄道、道路併用橋は、19世紀の終りにフランス人ポール・ドマーの指導

のもとに完成した。北ベトナムから南に多少でも重量のある兵器を運び込もうとするときには、否応なくこの橋を渡らなくてはならない。当然、アメリカ軍はこのことを熟知しており、圧倒的な航空兵力を投入して破壊を試みる。一方、北としてはどれだけの犠牲を払おうとも、橋を守ろうと努力する。

このさい勃発した攻防戦は、間違いなく史上でもっとも激しいものであった。

時には一日に100機近い米軍機がミサイルと爆弾で攻撃、これに対して北は1000門を超える対空砲で応戦した。

ロンビエン橋の周囲には、このとき使用された高射機関銃、高射砲が多数残っており、また土嚢を積んだ指揮所もあった。破壊と修復は絶え間なく続き、航空機にも対空陣にも損害が続出している。

結局、ブルバップ、ウォールアイといった空対地ミサイルが橋の通行を不能にする。しかし北側は、舢舨(はしけ)を繋いだ浮き橋で、輸送を続けるのであった。この舢舨の残骸も複数が残されていた。

史上最大の空対陸の争いの目標となったポール・ドマー橋/ロンビエン大鉄橋。



Militaria Roundup!

アメリカ陸軍のバッジ

Part 2

軍の徽章にはさまざまなものが存在し、それぞれに意味や役割が存在する。前回のアメリカ陸軍徽章の続編として、今回は兵士の誇りである戦闘徽章と、陸軍航空隊の各種航空徽章(ウイング章)を紹介しよう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/サムズミリタリ屋 <https://www.sams-militariya.com>、PKミリタリア <https://margarate.militaryblog.jp>、MASH ☎06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>

バッジの着用位置

軍の徽章はその種類によって着用位置が決まっており、それは服装規定に明記されている。本特集で紹介しているアメリカ陸軍の各種徽章では、前回紹介した殊勲(大統領)部隊感状以外は基本的にユニフォーム左胸ポケットの上に着用し、制服の場合は勲章のリボン(略綬)の上に着用。野戦服(BDU)の場合は“U.S. ARMY”章(Army Distinguishing Insignia)の上に着用する。パラシュート章や歩兵戦闘徽章(後述)など複数の徽章を授章している場合は徽章を平行に着用するが、その際は戦闘徽章を上に着用するのが基本ルール。また今回は紹介できなかったが、射撃優等徽章(マークスマン章)や運転手・技術者(ドライバー/メカニック)章等の技能章はポケットのフラップに着用するが、これは制服の場合でBDUには着用されない。

金属製徽章とスターリングシルバー

軍隊の金属製徽章にはさまざまな金属が使用されているが、その代表格が真鍮で、アメリカ陸軍でもさまざまな徽章に使用されている。アメリカ陸軍の徽章には金色(Gilt)と銀色(Silver)の別があり、それぞれメッキ仕上げが一般的だ。ただし、銀色の徽章には貴金属を使用したものが存在。それはスターリングシルバー(Sterling Silver)製で、個人的に購入したものだった。1920~30年代頃に発行された民間の軍人向け軍装品カタログに掲載された徽章には①銀メッキと②スターリングシルバーの2種類が用意されており、好み(と懐具合)に応じて選択可能だった。ちなみに価格はスターリングシルバー製が銀メッキ製の約3倍となっている。

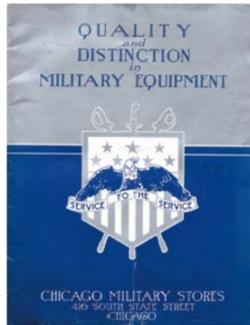
第2次大戦中の各種徽章を見ると、しばしば裏側に“STERLING”の文字が入ったものが見られるが、第2次大戦中は大国アメリカでも各種金属が物資統制の対象となり、軍需品にも代用品が使用された。この点に関して佐貫亦夫氏の「ヒコキの心」(講談社)に撃墜されたB-29について「エンジンも部品は戦争中の代用品という感じはいささかもなかった。平軸受などは錫のかわりに銀を使ってあって、代用品が本物よりぜいたくであった」と記されている。あるいは大戦中の徽章に使用されたスターリングシルバーも、実はほかの金属の代用品だった可能性が?



アーミーグリーン・ユニフォームの左胸には勲章のリボン(略綬)と各種徽章(バッジ)を着用する。写真の徽章は上が熟練兵士章(Expert Soldier badge/後述)で、下が航空急襲徽章(Air Assault Badge)。(Photo: U.S. ARMY)



2021年版の陸軍規定670-1に掲載された制服への徽章着用例。規定には着用方法として数例が図示されており、授章した徽章の数や種類で配置が異なる。本図に示された徽章は上から歩兵戦闘徽章(Combat Infantryman Badge)、陸軍シニア飛行士章(Senior Army Aviator)、グライダー章(Glider Badge)。



軍装品カタログの徽章

1930年代の軍装品カタログに掲載された陸軍の航空徽章(ウイング)。手刺繍と金属製の2種類が存在し、金属製は銀メッキ製とスターリングシルバー製の2種類に分かれている。ちなみに同じカタログに記載された特価品の将校ユニフォーム上下の価格は32ドル50セントで、スターリングシルバー製の徽章が高価であることが判る。



スターリングシルバーの刻印

ここで示したのは第2次大戦中の陸軍航空隊航空徽章(ウイング)の刻印。刻印の多くは単に“STERLING”のみだが、中にはメーカーの名前とロゴが入ったものも存在している(ここで示したのはアメリカ軍徽章の製造販売を行なった老舗メイヤー社の製品)。ちなみにスターリングシルバーは銀の含有量が92.5%の貴金属で、純銀は柔らかく加工に向かないため、銅やアルミを混ぜて硬度を出したものの。

歩兵戦闘徽章 COMBAT INFANTRYMEN'S BADGE(CIB)

歩兵戦闘徽章(CIB)は1943年10月7日に制定された徽章で、制定当初は「戦闘突撃章(Combat Assault Badge)」と呼ばれたが、制定20日後に「歩兵戦闘章」に改称されている。この徽章は当時の陸軍地上部隊司令官レスリー・マクネア中将の尽力によって制定され、歩兵の士気と威信を高めることが目的とされた。CIBの授章は太平洋戦争が勃発した41年12月7日に遡って行なわれ、その資格は「対敵行動における満足すべき任務遂行(Satisfactorily Performed duty)」とされた。しかし文言が漠然としているため44年10月に「対敵行動」は「敵地上軍との戦闘」に変更。つまりCIBの授章には実戦参加が条件で、従軍章のバトルスター(本誌20022年月3号参照)を授章しただけでは授与の対象とはみなされない。また、階級は大佐以下で、歩兵旅団あるいは、それより規模の小さい部隊の所属に限定されている。また1989年には授章対象が歩兵だけでなく、特殊部隊にも拡大されている。制定当初は授章者に月額10ドルが加給されたが、これは戦後の48年に廃止されている。

CIBの授与は1つの戦争又は紛争につき1回とされ、朝鮮戦争中の1952年2月8日に複数回授章者のためのCIBとして徽章のレース上部に星を追加したものを制定。現在までに3種類が制定されている。ちなみにCIBのモチーフとなっている銃は、アメリカ国産の軍用小銃第1号のスプリングフィールドM1795マスケット。

徽章の固定方式

アメリカ陸軍の徽章の固定方式には①スクリューバック式、②ピン・バック式、③クラッチバック式の3種類が存在しており、CIBには②と③が使用されている。②はCIBが制定された時から第2次大戦中に使用されたもので、③は第2次大戦後の1950年代(朝鮮戦争当時)から使用されて現在に至る。

ピン・バック式



クラッチバック式



1st AWARD

(撮影協力: MASH/US ARMY 歩兵戦闘章/1st Award/メタル製/カラー 01-83-1220/価格 2750円)



2nd AWARD

(撮影協力: MASH/US ARMY 歩兵戦闘章/2nd Award/メタル製/カラー 01-83-1230/価格 2970円)



3rd AWARD

(撮影協力: MASH/US ARMY 歩兵戦闘章/3rd Award/メタル製/カラー 01-83-1240/価格 3190円)

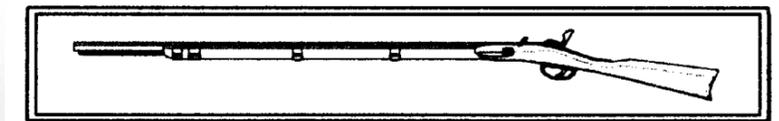


サブデュード版

(撮影協力: MASH/US ARMY 歩兵戦闘章/サブデュード/メタル製 01-83-1210/価格 1650円)

熟練歩兵徽章 EXPART INFANTRYMAN BADGE

歩兵戦闘章にはレースを取り去ったデザインを持つ「熟練歩兵徽章(エキスパート・インファントリマン・バッジ/EIB)」が存在するが、これは1943年11月11日に制定されたもので、授章には歩兵としてのMOS(軍専門職)を有し、陸軍省の定めた歩兵としての熟練度のテストをクリアすることが必要とされる。つまりCIBとは異なり、実戦参加を示す徽章ではない。



歩兵以外にも授与された歩兵戦闘徽章

歩兵戦闘徽章は授与対象が歩兵限定だが、第2次大戦中には歩兵意外の兵科の将兵にも授与されていた。たとえば日系第442連隊戦闘団だが、部隊史収録の名簿に記載された叙勲内訳を見ると、歩兵以外にも戦闘団の隊戦車砲中隊、第232工兵中隊、連隊本部、そして連隊直轄の砲中隊と補給部隊等のメンバーがCIBを授章している。またJAACL(全米日系人協会)の代表書記長で戦闘団に志願。部隊の渉外部に所属したマイク正岡も授章者の一人で、CIBの授章について以下のように述べている。「運転手と私は、第100大隊を別にして、第442部隊のなかで最初に敵の直接砲撃にさらされたということで、歩兵戦闘勲章受賞の第一号になる資格があると教えられた。ここで再度強調したいのだが、アメリカ軍の制服を着ている男たちのなかで、私はいちばん戦闘歩兵と評価される資格のないことは確かなのだ。とは言え、その後も私は何度も砲火をくぐりぬけたり、砲火を浴びる危険にも頻繁にさらされたので、このときの勲章を堂々とつけていた(『マイク正岡/ビル細川』著『モーゼと呼ばれた男 マイク正岡』(TBSブリタニカ))

SWIMMER'S WEIGHT BEARING VEST LBT-1195初期シングル・ハーネス・モデル

前回(2022年3月号)紹介した3本ハーネスの次に制作されたのがこのシングル・ハーネス・モデルだ。付属のFASTEXを見ると1992年と1994年生産の物が使われている事、1993年版のLBTカタログに掲載されていない事から3本ハーネスの後期であることが分かる。3本の細いハーネスに物が引っかかることから、改良版としてこの幅広いシングル・ハーネス・モデルが加わったようだ。これはBHフローテーション・ハーネスでも同じラインナップが追加されている。生地は3本ハーネスと同じナイロンとコットンが混ざった仕様となっている。ビデオテープ『Navy SEALs Training: The Silent Option』ではハーネスの形状が分かりにくい、背中中のドラッグハンドル部分の長さやLBTタグの有無で確認することができる。



参考
『Navy SEALs Training:
The Silent Option』

THE EQUIPMENTS OF THE U.S. FORCE

シングル・ハーネス部分以外はほぼ3本ハーネスとデザインは同じだ。1990年代後期まではこのシングル・ハーネス・フローテーションベストが主流となる。



1 ドラッグハンドル部分(表側): 3本ハーネスにはこの部分にLBTタグが縫われていた。FASTEXは個人で裁縫しているの分かる。また3本ハーネスよりも少しドラッグハンドルが長いようである。2 ドラッグハンドル部分(裏側): LBTのシルバー・ライオン・タグが縫われている。市外局番「804」は1995年以降「757」に変更されているので、このベストは1994~1995年に制作されたものと思われる。3 背面フローテーション・パネル下部(表側) LBTシルバー・ライオン・タグと市外局番「804」が確認できる。こちらはピストルベルトを装着すると見えなくなる。4 こすって見えにくい1994年製造の刻印が打ってある。5 こちらは1992年製造。



上/ショルダー・パッドには付属のアクセサリ金具とは別にFASTEXがカスタムされている。下/アクセサリ用ハトメが左右の浮力パネルに付属する。



KIMBER ECLIPSE PRO WOOD GRIP Ver.

**WESTERN
ARMS**

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
 @ウエスタン アームズ
 ☎03-3407-5922
<http://www.wa-gunnet.co.jp>



キンバー エクリプス・プロ/ウッド・グリップ・バージョン
 ●全長:約195mm ●銃身長:約95mm
 ●重量:約819g ●装弾数:21+1発
 ●価格:4万1,800円 ●絶賛発売中!!



装填確認用の窓を備えたキンバー・
 タイプのメタル・チャンバー・カバ
 ーに、シンプルな.45ACP刻印。



独特な縞模様を刻んだバッカー・ウッド製の
 グリップを標準装備。マガジンリリース・ボ
 タンへのスピーディーなアクセスをサポート
 するスカルップ加工が施され、積層材特有の
 模様が良いアクセントになっている。

アメリカを代表する クローン・ガバメント・メーカー キンバーのスタイリッシュな .45キャリー・カスタム

1990年代にガバメント・クローンの製作を始めたキンバーは、合理的な製作方法と、リーズナブルな価格で急速に市場を拡大した。需要の増加に伴って製作精度をさらに向上させ、高い実射性能を備えたクローンを複数ラインナップ。2000年代に入ると、クローン・ガバメントを製作するメーカーの雄となって、多くのファンを獲得した。米海兵隊のマーサック、LAPDスワットのカスタムTLE (SWATカスタム)、LAPDのエリート部隊、スペシャル・インベスティゲイション・セクションのSISカスタムなど、軍・警察関係に採用されたことも、キンバーの人気を決

定的にした要因だ。日本でも著名な銃器インストラクターたちを始めとして、高度なコンパクト・トレーニングを受けたシューターの多くが、好んで使用しているという事実から、キンバーのクローン・ガバメントは、手頃な価格で精度と機能を重視したタクティカル・カスタムというイメージが定着し、現在に至っている。シンプルなモデルからレールド・フレームのタクティカル系カスタムまで、キンバーの.45シリーズには、実戦的な機能を充実させたシリーズが多いが、マッチ・カスタムやセルフ・ディフェンス用のコンパクト・モデルなど、幅広い用途に合わせた

M1911クローンも製作している。コマーシャル・ユースを念頭に置いたキンバー・シリーズの中で、もっともセンセーショナルだったのが、ツー・トーンのスタイリッシュな外観を持つ「エクリプス・シリーズ」だ。このクローン・ガバメントは、2002年にアメリカの銃器雑誌「シューティング・インダストリー」が主催する「アカデミー・オブ・エクセレンス・アワード」で「ハンドガン・オブ・ジ・イヤー」を獲得。ステンレス製のフレームとスライドを、マットブラック・オキサイドでフィニッシュし、フラット・サイドにブラッシュ・ポリッシュを施したツー・トーンは、鮮やかなコントラストで多くのM1911



※撮影用モデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様が異なる場合があります。

月刊
THE グリーンベレー
GREEN BERET vol.41

GREEN BERET MOS-18D MEDICAL SERGEANT

文・写真/DJちゅう 軍写真/U.S.ARMY 撮影協力/あおいの (@U40aoino) 装備協力/Tetsu (@PJ_Tetsu)

参考文献

GO ARMY.COM [CAREERS & JOBS],
SOC.mil [Special Warfare Medical Group (Airborne)],
ARMY NATIONAL GUARD [SPECIAL FORCES
QUALIFICATION COURSE (SFQC)],
GENTEX [USSOCOM FAMILY OF TACTICAL
HEADBORNE SYSTEMS (FTHS) COMPLETE
PRODUCT GUIDE]



お久しぶりのSF-MOSシリーズ。今回ご紹介はMOS18D
メディカルサージェント!!

18Dは特殊部隊の医療・衛生におけるスペシャリスト。チ
ーム内の医療品準備、機器・消耗品の維持、チームメンバーに
対する治療と検査を提供します。また作戦支援のために任務
に応じて非常用医療施設の確立など、特殊部隊任務に対する
医療面における全般をバックアップ。任務によっては同盟国
や先住民に対する医療サポートも行ないます。主に外傷医学
に重点を置いて訓練しますが、歯科、獣医、公衆衛生、水質、
検眼等の実用的な知識も身に付けています。

さて、MOS18Dを取得するには、まずQコース専門技能過
程 (Phase3) に入る前に、特殊作戦衛生兵 (Special Forces
Medical Sergeant Course: SOCM) コースを通過しなけれ
ばなりません。このSOCMコースを2年以内に修了すれば、
国家救急救命士 (National Registry EMT) の基礎レベルと
認定されます。加えて、SO-ATP (Advanced Tactical
Paramedics) 特殊作戦上級戦術救命士試験をパスすることで、
ようやくU.S.SOCOMのメディックとして勤務が可能となり
ます。その後、Qコース専門技能過程にあたる Special
Forces Medical Sergeant (SFMS)、全米のさまざまな病
院で行なわれる臨床訓練 Special Operations Clinical
Training (SOCT) を経て、ようやくMOS18Dを取得となり
ます。長いですね。また4年に1度、Special Forces
Medical Sergeant Skills Sustainment (SFMSSC) とい
うスキル維持のための訓練も参加必須となります。

12名構成のODAチームには基本2名配置。ほかのSF-
MOSより長い期間の訓練課程を全力で走り抜け、医療は任せ
ろ! なグリーンベレーメディックになりましょう。

TOKYO
MARUI

COMPACT
CARRY
GAS GUN

CURVE

Photo & Text by Takeo Ishii 株式会社 東京マルイ ☎03-3605-1113 www.tokyo-marui.co.jp

2021年にシリーズ始動!
2022年も大ヒットアイテムとして
更なる成長・拡大を見せてくれそうな
コンシールドキャリーガスガンシリーズに
早くも第4弾=“ちょっと変化球”の
CURVEが登場!
唯一無二の個性を放つ!

曲線形状で身体にフィット! 異色の携帯型護身拳銃

この拳銃=CURVE (カーブ) のもっともユニークな点は全体が緩く湾曲したデザイン。身体に沿った曲線を描くことでインサイドパンツ (=スボンの内側) やポケット等に入れてキャリーする際に胴体にピタ

リと密着し銃のシルエットを浮立たせない工夫である。

凹凸がほとんどなく丸みのある長方形のシルエットは素早く取り出す際の引っ掛かりを防ぐため。アイアンサイトすら省略した徹底的な「ス

ナグフリー・デザイン」は、もはや拳銃というよりスマホのようだ。

実銃の開発・製造は毎年のようにユニークな製品をリリースしている事で知られるブラジルの銃器メーカー、トラス社で、巨大マーケット=

アメリカの支社はフロリダにある。CURVEは2015年に発売され、このユニークな形状はもとより、レーザーサイトとLEDライトを標準装備しながら価格400ドル以内……というリーズナブルさでも当時は話題になった。



ANOTHER
SIGHT
PICTURE

SAS & DELTA PHOTO SESSION BASRA BASE PSD AND QRF MISSION

某日、東京サバゲパークで行なわれたフォトセッションに密着!

TEXT & EDIT BY JK SPECIAL THANKS HARUNOBU YOKOTA (TAYLOR and STONER)

今回のフォトセッションは、2006年頃の米政府高官をイギリス軍管轄のイラク南東部バスラ基地へ移送・護衛する架空のミッションをテーマ

にして行なわれた。

護送時の装備や、基地内シューティングレンジにて行なわれたであろう英米隊員の合同練習風景も再現。

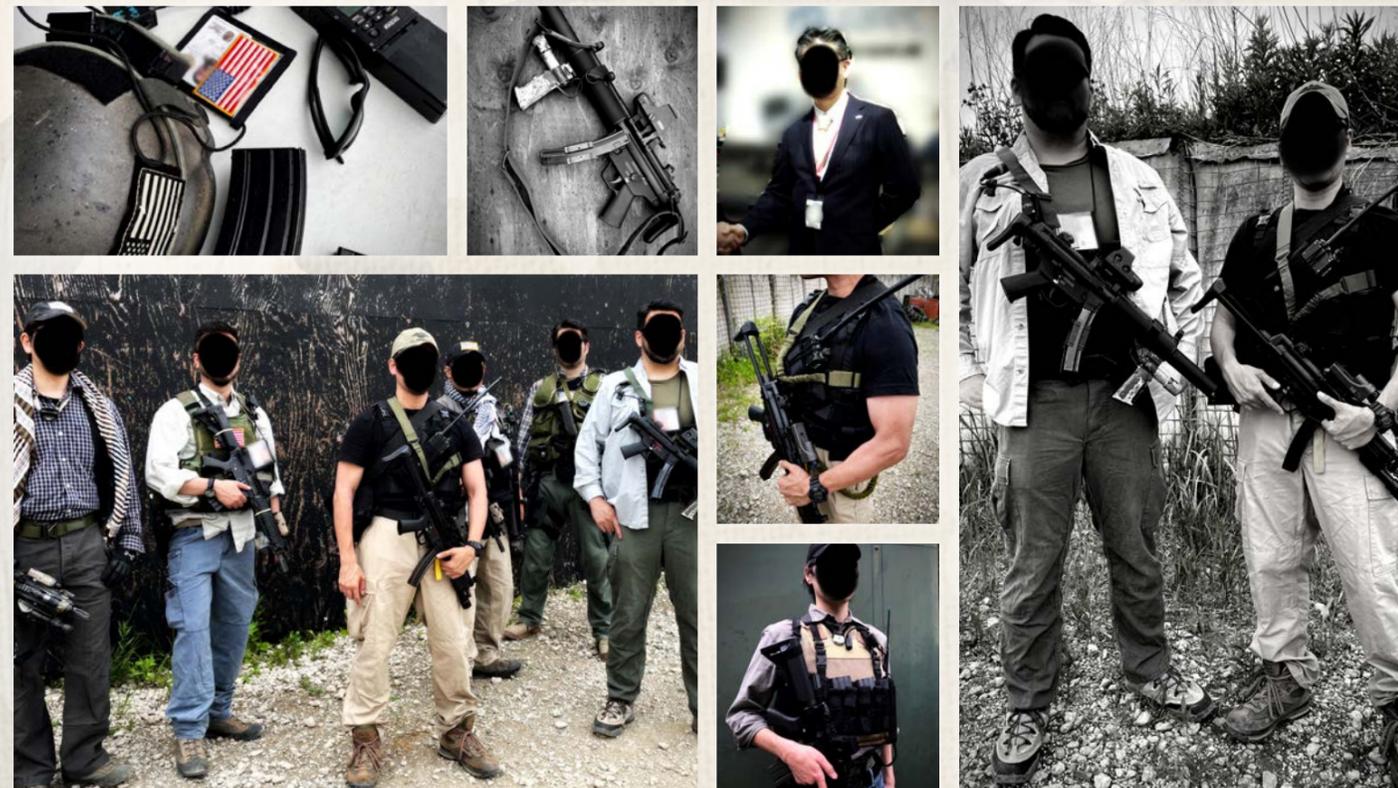
今回再現された「TASK FOR CE145」は当時ドリームチームと呼ばれ、米JSOC (特殊作戦軍) 指揮のもと、主に英、米で構成されたジ

ョイントチームである。

装備に共通点も多いが、その細かな違いが再現されており、資料としても価値のあるイベントとなった。

アメリカ軍 Delta Force & Air Force 要人警護ミッション

今回のメインテーマであるイギリス軍管轄、イラク南東部に位置するバスラ基地へ、アメリカ政府高官を護送するデルタフォースとエアフォースのPSD装備を再現。デルタフォース Cスコードロンが請け負った際のPSD装備の写真を元に再現されていた。完全な兵装ではなく、ラフなイメージではあるが、IDパスや要人を警護する際の必要最低限の銃器を装備していた。また、今回護送された米高官の写真も資料の中に用意されていた。



イギリス軍 SAS & アメリカ軍 Delta Force & Air Force 射撃訓練

要人護送を終えたデルタフォース等とSASの合同訓練の様子。意見交換をしながらシューティングレンジに並び、射撃訓練。SASで参加されたメンバーによってイギリス軍で使用されているマンターゲットも再現・用意されており、こだわりの強さを感じられる。



2006年当時、SAS、Delta Force双方で使用されていたParaclete製のRAVだが、ポーチのメーカーや配列、PTTなどは双方まったく異なっていた。